

1. 評価結果概要表

作成日 2008年12月9日

【評価実施概要】

事業所番号	1290800075
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	市川グループホームそよ風
所在地	千葉県市川市本北方2-27-7 (電話) 047-303-5567

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成20年12月9日
評価確定日	平成21年1月7日

【情報提供票より】(20年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年11月1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	19 人
利用定員数計	18 人
常勤7人, 非常勤 12人, 常勤換算 8.4人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(320,000円)	有りの場合償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.5 歳	最低	72 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	若葉クリニック、デンタルサポート
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年11月1日開設の施設で、ほぼ1年にして運営を軌道に乗せ、福祉サービスの基本とも言うべき入居者・家族との信頼関係の確立ができています。ホーム名「そよ風」、ユニット名「なごみ」、「のどか」と命名し、穏やかで安心できる住処を目指すと共に、認知症に対する深い理解とグループホームの目指すところを踏まえ、当ホーム独自の理念を練り上げ明示して、運営への浸透を図っている。職員は忙しさを顔に出さず明るい笑顔で入居者を大切に思いやり、尊厳やプライドを大切に親身に対応している。入居者の表情も生き生きとしており、法人の管理栄養士からの献立に従いつつ、調理、配膳など入居者も共に参加して役割を担っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初めての評価のため、該当事項はない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ミーティング時にサービス評価の意義や目的を伝え、各ユニットごとに自己評価を行い、取り組んでいきたい項目約40を列挙している。今後、各項目に担当職員を割り当て改善計画を進めることにしている。優先順位、達成目標、担当、方法、予算など明確にした改善計画書を作成し、着実な実行が望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回、市の職員のほか、順番に4組の家族の参加を得て、取り組みの経過や検討事項を報告している。今後は、会議構成員の拡大を図るとともに、今回の評価結果の改善計画とその経過のフォローを行っていくこともテーマとなる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族への報告は、居室担当者が作成する個別の近況報告書・お小遣い管理表を毎月郵送している。毎月発行のグループホーム便りでも、ホームの様子を伝えている。家族の訪問も比較的頻繁にあり、その都度親身に対応している。家族の意見、不満、苦情は、主に運営推進会議で取り上げているが、意見箱も設置することとしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	これまでの施設内の生活を通して、入居者と職員間の信頼関係を結ぶことができているが、地域密着型の本旨とも言うべき、地域の中で受け入れられ、日常的に繋がりを持った生活するところまでには至っていない。今後地域の諸団体とその活動や行事などの実情を調査し、理解者や行政などのチャンネルを通して働きかけ、参加していくことが望まれる。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

外部		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人、市川グループホーム、各ユニットそれぞれに独自の理念を練り上げ、玄関や事務室に掲示している。特に認知症をもつ入所者の一瞬一瞬を大切に温かい心と元気な笑顔で共に生活しようとする当ホームの理念には、センター長の心意気が込められ、面目躍如としている。より見やすい掲示の工夫や内容に地域との関係性の視点も取り入れるとなお良いと思われる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回開催のミーティングを貴重な機会としてとらえ、理念の徹底を図っている。ミーティングは事業所全体会としたいが、入居者の見守りの関係もあり1・2階交互に支援し合いながら開催している。短時間に入居者のカンファレンスも行わねばならないので、議題や話題に応じて理念との関連付けながらの効率的な進行を心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自己評価でも認識しているように地域活動への参加はこれからで、当面、町内会への加入や老人クラブへの参加を目指している。		当ホームが地域の中に受け入れられていることが地域密着型サービスの前提条件でもあるので、地域の諸団体とその活動や行事などの実情を調査し、理解者や行政などのチャンネルを通して働きかけを実施されたい。近隣の小・中・高校の学習活動や地域防災関係者との交流も望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング時にサービス評価の意義や目的を伝え、各ユニット長を中心に自己評価を行い、取り組んでいきたい項目約40を列挙している。各項目に担当職員を割り当て改善計画を進めることにしている。		改善への意欲が見られるが、取り組み項目が多いので、項目の羅列に終わることのない様に、優先順位、短・中・長期目標、担当、方法、予算などを明確にして着実に実行できる改善計画書の作成が望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催で、取り組みの経過、検討事項等を報告している。家族、市職員の積極的参加が得られている。今後、地域の理解者、知見を持った方など参加範囲の拡大も図ろうとしている。		

外部		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所介護保険課に電話や直接出向いて報告、相談をして連携を図っている。今後、地域包括支援センターとの連携も進めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	居室担当者が作成する個別の近況報告書・お小遣い管理表を毎月郵送している。また、比較的頻繁に家族の訪問もあり、その都度対応するほか、毎月、「グループだより」の発行なども行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時、できるだけ気軽な対応につとめ、運営推進会議に毎回4家族は参加するようにして意見を述べる機会を設けている。今後、意見箱の設置、市の窓口も含め、入居者・家族の意見、不満、苦情表出の機会を増やそうとしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に各ユニットの職員は固定し、馴染みの関係を大切にしている。これまで2名の異動があったが、特に異動についての入所者・家族へのお知らせはしていない。お知らせの方法は、入居者・家族の不安につながらないよう、状況により判断することになっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員教育として、各セクション3日ほど先輩職員の同行による受け入れ教育を行っている。その他、毎月千葉県内の法人のグループホーム会議で勉強会を行っている。職員の職能スキルのチェック項目の作成も検討している。		法人内で多くのグループホーム等介護サービスを展開しており、職員教育のノウハウの蓄積もさしていると思われる。求められる職能や資質の標準化を図り、個々の職員のステップアップ教育研修等について検討することが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	これまであまりできていないが、今後の取り組みとして市の協力も得ながら他のグループホームの見学や交流を進めようとしている。		

外部		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>殆どの入居者は納得して生活しており、そのことが職員とのかかわりや生き生きとした表情で見取れる。職員は入所者とのかかわりでの気づきをケアノートに記入するなどして馴染みながらのサービスに努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>できることは行っていただくの理念にあるように、特に食事について食材の受け入れ、調理、配膳、後片付けなど役割分担をしてもらい、若い職員には作り方も教えてもらったりしている。今後、さらに多彩な場面で個別に対応する必要がでてくるので、地域のボランティアの協力を得る働きかけも一つの方法である。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>その日、そのときの、入居者それぞれの「表情」をととても大切にしている。その表情からくみ取れる一人ひとりの気持ちを職員間のコミュニティノートなどで、夜勤の職員に至るまでみんなで共有できるよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月に1度モニタリングを行い、入居者主体のケアになっているか省みている。提携するクリニックから月2回、歯科クリニックからは毎週医師が往診し入居者の主治医として関わり、その所見も介護計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアマネジャーを中心にモニタリングを月に1回、介護計画(ケアプラン)は半年に1回見直している。入居者の日々の表情や状態を把握し、変化が見られた際は随時、臨機応変に介護計画を見直している。</p>		

外部		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	提携する医療機関とは携帯電話で24時間いつでも連絡が取れるような体制を組み、入居者の健康管理や医療の活用を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携するクリニックの医師が主治医となり、定期的に訪問診療を行い、入居者、家族ともこの体制を受け入れている。他に希望する医療機関がある場合は、それを優先させている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を踏まえ、看取りの時まで安心して入居していただく方針となっている。しかしながら、ホーム内に看護師がいなくてもあり具体的な体制づくりまでには至っていない。		事業所のみならず法人全体で、できることとできないことを見極めた上でのターミナルを想定した指針づくりが急がれる。訪問看護ステーションや地域包括支援センターなどとの連携も視野に入れたチームでの話し合いを重ねることが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者を人生の先輩として尊敬し、その誇りや自尊心を傷つけないような言葉づかいや対応をするよう、ミーティングなどの折りに周知徹底を図り努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	2つのユニットの名前は「なごみ」と「のどか」。のびやかな地でなごやかに暮らしていただきたいとセンター長が名づけた。その日の、一人ひとりの、それぞれの気持ちや状態を尊重した選択できる生活の場となるような支援になるよう努めたいと考えている。		

外部		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士が立てた献立をもとに、配達された食材の仕分け、調理、盛り付け、片付けを入居者と職員が協力して行っている。ホットプレートを活用するなど、安全に個人の能力を発揮できる工夫をしている。職員も一緒にテーブルを囲んで楽しく食事できる雰囲気も作っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴剤や、5月のしょうぶ湯、冬至のゆず湯など季節感を取り入れ、楽しく入浴できるような工夫をしている。個々の希望に応じた入浴の提供ができるよう検討中である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや草むしりなど、それぞれの得意分野で仕事をお願いし、必ず感謝の言葉を伝える。習字など何かみんなでやる時は、それが得意な入居者を中心にその力を発揮してもらっている。入居者の発案による外食も楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性につながるよう散歩はほぼ毎日行っているが、近くに公園がないこともあり出かける範囲は限られている。一人ひとりの気分や希望に応じた外出の支援にはまだ至っていない。		日常的な外出は地域の人と関わる機会でもあり、積極的な外出の支援が望まれる。それぞれがなじんでいた場所に出かけたり、買い物や外食など戸外に出かける機会を多く作りリフレッシュや心身機能の維持を図ることが促される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの大切さを職員は認識しており、まず1階のベランダの鍵を開け自由に庭に出られるようにした。しかし、各ユニットの入り口の鍵は施錠してあるため、1階と2階の交流も少ない。		出ようとするばいつでも外に出られるという安心感は、入居者の精神的バリアをなくすためにも大切である。一律ではなく個々に対応することを基本に、少しでも解錠する時間を増やすための検討と工夫が望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者はおり、夜間の災害の際には近隣に住む職員6名がすぐ駆けつける体制になっている。半年に1度の防災訓練を計画しているが、まだ実際には行われていない。		災害時のマニュアル作成と入居者を含めた避難訓練などの実施が急がれる。さらに地域の避難訓練にも参加するなどして地域、そして消防署や警察署等との連携・協力体制を築いて行くことが必要であると思われる。備蓄の準備も促したい。

外部		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分管理表や食事摂取量の記録により、一人ひとりの体調の変化に迅速に気づけるよう努めている。職員の細やかな観察や工夫により、入居当時ペースト状の食事だった入居者が常食になった例もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには入居者が共同して作ったカレンダーやちぎり絵が、階段には折々の入居者の生き生きした表情をとらえたスナップ写真がバランスよく飾られ、季節感を取り入れた、清潔でくつろげる共用空間となっている。日当たりもとても良いが、まぶしさに配慮してカーテンの色を変えるなどの試みをしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、部屋を迷わないよう本人の写真が飾られており、温かい雰囲気を作っている。家族に、本人がなじんだ家具や使い慣れたもの、好みのものを持ってきていただけるように働きかけている。		